

(様式6-A) A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

反町 秀美 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題目 Sex differences in left ventricular afterload and diastolic function are independent from the aortic size.

(左室後負荷と拡張能の関係における性差は大動脈サイズに独立している)

PLos One. 2019 Apr 4;14(4): e0214907. doi: 10.1371/journal.pone.0214907.

Hidemi Sorimachi, Koji Kurosawa, Kuniko Yoshida, Masaru Obokata, Takashi Noguchi
Minoru Naka, Shoichi Tange, Masahiko Kurabayashi, Kazuaki Negishi

論文の要旨及び判定理由

女性は男性と比較し、左室駆出率の保たれた心不全(heart failure with preserved ejection fraction; HFPEF)の罹患率が高い。この理由として心拍出の緩衝作用を有する大動脈のサイズが女性では小さいことが一因として予測されるが、今までに大動脈サイズ(長さ/容積)を用いた研究はない。そこで左室後負荷と左室機能の関係に性差が存在するか、またその性差は大動脈サイズで補正したあとも独立して存在するかを検討した。心エコー図検査とCT検査を施行した443例(平均年齢:73歳、女性:169例)を対象とした。男女とも e' と左室後負荷指標の間には有意な相関があったが、女性の方が男性よりも有意に強い相関を有していた。その他の拡張能指標(E/e' , LAEF)と後負荷にも同様の関係が認められ、大動脈サイズで補正後もこの男女差は有意であった。以上より左室拡張能と後負荷指標の関係における性差には大動脈サイズの違いは大きく影響しておらず、性差の理由を十分悦明できるものではなかった。左室駆出率の保持された高齢患者において、左室拡張能と後負荷の関係に有意な性差があった。大動脈サイズで補正する前後で、同程度の後負荷を有する男性と比較し、女性ではより左室拡張能が悪化していた。以上の論文に対し審査を行い、博士(医学)の学位に値するものと判定した。(審査令和元年6月3日)

審査委員

主査 群馬大学教授(医学系研究科)
臨床検査医学分野担任 村上 正巳 印

副査 群馬大学教授(医学系研究科)
腎臓・リウマチ内科分野担任 廣村 桂樹 印

副査 群馬大学教授(医学系研究科)
脳神経内科学分野担任 池田 佳生 印

参考論文

1. Effect of Sex difference on the Association Between Stroke Risk and Left Atrial Anatomy or Mechanics in Patients with Atrial Fibrillation.
(心房細動患者における、塞栓症リスクと左房機能の関連に対する性差の影響)

（様式6， 2頁目）

最終試験の結果の要旨

左室高負荷と左室拡張能の関係における性差について

試問し満足すべき解答を得た。

（試験 令和 元年 6月 3日）

試験委員

群馬大学教授（医学系研究科）
循環器内科学分野担任

倉林 正彦 印

群馬大学教授（医学系研究科）
臨床検査医学分野担任

村上 正巳 印

試験科目

主専攻分野 循環器内科学 A, B, Cなど

副専攻分野 臨床検査医学 A, B, Cなど